

活動報告書

報告者氏名：徳永 みき

所属： 鹿屋市立大黒小学校

記録日：H27年2月26日

【対象児の情報】

○学年 小学校4年生

○障害名 自閉症

○障害と困難の内容

- ・ 順番や勝敗にこだわりがあり、負けると感情をおさえられず大泣きしてしまう。
- ・ 行事に対する不安感が強く、行事前に情緒が不安定になる。
- ・ 練習ではできることが本番ではできなくなり、座り込んでしまう。(運動会、学習発表会)
- ・ 自分の気持ちを優先してしまい、相手の気持ちを意識した関わり方が苦手である。
- ・ 過去の経験より自己肯定感が低く、注意やアドバイスを落ち着いて聞けない。
- ・ 音読が苦手で、早口になってとばし読みをしたり、正しく読めなかったりする。

【活動目的】

○当初のねらい

- ・ だれかとつながる喜びを感じ、相手の気持ちを想像しようとする。
- ・ 客観的な視点で自分を振り返り、学習成果や達成感を味わい、自己肯定感を高める。

○実施期間 H26年/4月からH27年/2月(継続中)

○実施者 徳永みき

○実施者と対象児の関係 特別支援学級担任と在籍児童

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・ 大規模校より2年生2学期に本校に転入。特別支援学級在籍であるが、交流学級(複式学級)における他児童との関わりの中で親友ができるなど友達関係も築きつつあり、日常は穏やかに過ごせるようになってきた。しかし、大きな行事の前や、週終わり(木・金曜日)の疲れが溜まってきた時などに、自分の感情をうまくコントロールできず言葉遣いが悪くなったり、友達に対し攻撃的な行動に出てしまったりすることがある。
- ・ 順番や勝敗へのこだわりのため、ごっこ遊びやドッジボールなどの遊びの中で大泣きし続けてしまうことや、まわりの子ども達もどう接したらよいか戸惑うことで、楽しさを共有する経験がこれまで少なかった。
- ・ 一昨年の運動会や学習発表会で、練習でできていたものが本番ではできなくなり座り込んでしまうことがあった。そこで、昨年度の学習発表会は、事前に作成したものを発表会当日ビデオ放映。ナレーションを担当させることで、苦手だった音読を上手にできたという自信へつなげる配慮を行った。
- ・ 過去の経験から「どうせ僕はできないんだ。」と後ろ向きな発言が聞かれるなど自己肯定感が低く、注意やアドバイスの内容に目を向けられず、責められているという感情ばかりが強くなるためか素直に聞き入れられないことが多い。

○活動の具体的内容

① 自尊心を傷つけず、注意やアドバイスの内容に注目できるように。

→第1次<気づき>「友達に教えてあげるといふ形」の自分のためのマニュアルビデオ作り。

→第2次<自己解決>「わるい〇〇くんがでたときは？」の対処法絵本作り。

- ② 大きな行事で本番でも力を発揮できるように。順番より最後までがんばることに意識を向かせるために。
→ 出来た自分を振り返り、自分の声で記録を残す。
- ③ 友達のよさに気づくこと。一緒にできる楽しいことを実感するために。
→ 交流学級の友達と、「はみがき3分できるかな？」はみがきビデオ&はみがきカード作り。
- ④ 自己肯定感を高めるために。
→ 学習発表会でのビデオ発表や交流学級での頑張っていること発表会。
→ 苦手な音読に無理なく取り組めるようにメトロノーム音に合わせた詩の朗読練習や音声絵本作り、読んだ本の記録。



- ・ Book Creator (絵本が作れるアプリで音声や動画も取り込め、操作が簡単のため本児童一人でも作りあげていくことができ、全画面表示にすることで、頑張っていること発表会のプレゼンでも活用できた。)
- ・ iBooks (Book Creator で作成した絵本やプレゼンテーション資料を電子書籍として表示することができる。主に作った自作絵本を管理。)
- ・ iMovie (動画編集アプリ。ipad で撮った動画や静止画を直接編集でき、挿入したい位置に直接ナレーションも吹き込んでいけるので、児童と一緒に編集に取り組めた。)
- ・ 写真 (発表会の後、ストリーム機能において、友達からいいね！を押してもらったり、コメントを書き込んでもらうために使用した。)

○対象児の事後の変化

①の取り組みを通して

・ 第一次<気づき>

注意やアドバイスをする時、予知できる行為に関しては、「友達に教えよう」という切り口で、本人登場の説明ビデオを作っておき、実際の場面では「どんなことに気をつけるんだっかな。ビデオを思い出して。」と声をかけながら作業することで、アドバイスを素直に受け入れることができるようになってきた。また、自分が映っている動画を見るのが好きなので、空いた時間に動画の確認をすることで、自然に気をつけてほしいポイントが実際の場面でも意識されつつある。また、感情をおさえきれずにやってしまった行為に関しては、「悪いY君出ちゃったね。」と第三者に置きかえた表現を使ったり、「悪いY君を追い出そうか。」と話をしたりすることで、いらいらする気持ちをおさえ、落ち着いて聞けるようになってきている。また、気持ちが不安定でなかなか聞き入れようとしなかった場面でも、ビデオで確認しながら話をしたところ、素直に聞き入れる場面が何度かあった。



花の水かけのしかたについてのビデオ



習字の時気をつけること絵本

・ 第二次<自己解決>

「悪いY君が出てしまうのはいつなのか」を本人と一緒に考えたところ、体調が悪い、おなかがすいた、疲れたなど、なんだかもやもやすする時なのではないかという結論になり、そんな時はちょっと気をつけること、「にこっ」「とんとん」で気持ちを切り替える努力をしてみることを決めた。そのことを Book Creator で記録し、時々確認することで、少しずつ自制できるようになってきた。

②の取り組みを通して

- ・ 運動会の練習の始まる前に「1位じゃなくても、最後までがんばる。」という目標を掲げていた。しかし、最初の練習では半周くらいのところで失速し、最後は大泣きしながらゴールしてしまった。このように、その場ではどうしても感情を抑えきれないことが多い。しかし、少し落ち着いた時に話してみると、どう

したらいいか、そして次はどう行動するか語ってくれる。そこで、運動会の練習の後、その日の練習について振り返り、今日できたかっこいい自分や、なりたい自分について声に出してインタビュー形式で記録していくことにした。すると、少しずつ本人の中の漠然としていた気持ちが整理されていったのか、運動会に向けて決意を日記に綴ってくるなど意識の高まりが見られ、運動会当日も全種目に笑顔で参加することができた。

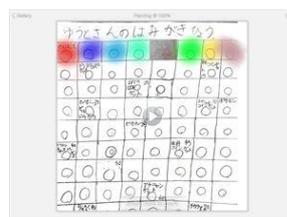
③の取り組みを通して

- ・2学期は大きな行事が多く、心が安定しない日が多くなった。友達に対する言葉遣いも悪くなりトラブルを起こすことが多くなってきた。そこで、友達との関係作りを導いていく手段としてipadを活用することにし、「はみがき3分できるかな？」はみがきビデオ&はみがきカード作りに交流学級児童とともに取り組んだ。これまで、交流学級においては砂時計を使用した3分間のはみがきというルールがあった。しかし、なかなか守ることができず、友達に注意を受け、けんかになることがあった。また、そんなY児に友達が2年生の頃からはみがきカードやご褒美カードを作ってくれていたのだが、なかなか活用できずそのままだった。そこで、次のような取り組みを行った。

- 1 ハミガキタイムというアプリを使い、2分間のはみがきに取り組む。
- 2 2分間のはみがきに慣れてきたころ、自作のはみがきビデオを作成。(クラス全員参加、曲を3分間に編集しみんなで歌ったものを録音。途中どこを磨くか、あと何分かという情報を盛り込んだビデオ。)
- 3 子どもたちが作ってくれていたはみがきカードとご褒美カードをipadの中に取り込み、ipad上で管理できるはみがきカードを作成。5回たまると友達の作ったご褒美シールを貼り付けることが出来る。これを毎日記録する。

- ・ビデオ制作の時点から大喜びで参加し、出来上がったビデオを何度も何度も見返す姿が見られた。特に、途中ではみがきの歌に合わせて踊る友達や自分の姿がおもしろく、また、ビデオを見て歯磨き、そのまま記録という一連の作業がスムーズに行えるので、これが毎日の習慣となっている。他の児童達も自分たちが登場する「はみがきビデオ」が予想以上に楽しいようで、自然と集まり、みんなではみがきをするようになった。また、Y児自ら「一緒にやろう」と自ら誘う場面も見られるようになってきた。

使用アプリ



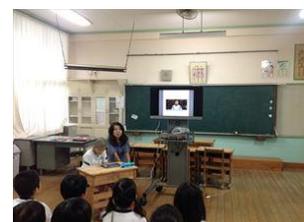
はみがきカード

④の取り組みを通して

- ・学習発表会で、「ことば遊び」という演目で自作の詩を作り、それに合わせた動画を交流学級児童、教師などに出演協力をもらい撮影していった。Y児は、あまり得意ではなかったナレーションをすべて一人で行い、また演技にも参加したが、撮ってすぐ確認することで本人の納得のいくものにすることができ、安心して発表会を迎えられた。作品作りという目的があることで意欲的に取り組み、学習発表会のビデオは自慢の作品で「早くみんなに見せたい。」とわくわくしていた。また、当日、たくさんの人に褒められ、うれしそうにしていた。
- ・交流学級で月に1度、頑張っていることの発表会を行った。特別支援学級での学習の様子や、授業の一環として特別支援学級で行っている学校での仕事の様子などをBookCreatorを使って本人自ら編集。テレビにつなげてプレゼンテーション形式で発表した。その後、友達から感想をもらい、写真ストリーム上



学習発表会のビデオ



頑張っていること発表会の様子

に「いいね！」やコメントをもらうようにした。作った作品や動画を友達に見せたいと、発表はいつなのか何度も聞く姿が見られた。

・音読を毎日の習慣となるよう以下のような取り組みを行った。

1 本読みの意欲付けのために、Photomemes を利用し、写真で毎日本読みの記録をつける。

2 音読の繰り返し練習（詩の朗読）の習慣化のために Tap' n Counter20 のアプリを利用。毎日カウントしていった。また、音読時にビデオ記録を行い、後で振り返る学習を進めていたが、その中で、文章をうまく読めない原因のひとつに早口になってしまうということがある



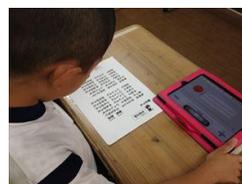
ことに気づいたため、Metronome+を使って、音に合わせる詩の音読を取り入れた。 使用アプリ

3 Book Creator を使って自分だけの絵本作り。当初は音読の様子をビデオ録画して後で確認する方法で行っていたが、振り返る時わかりやすくなるように、絵本の各ページを児童本人がカメラで撮影し、Book Creator の中に取り込み、各ページに音読を録音して絵本を作るという活動を取り入れた。



音読の記録

・音声絵本作りやナレーション録音では、撮ってすぐ確認することで間違わないようにしたり、相手を意識した言い方を心がけたりするようになった。また、タブレットに毎日の記録が残せていくことで達成感を味わってきているようである。



メトロノーム音に合わせて詩の朗読練習



音読絵本作りの様子

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

(1) 自分の行動や言動に注目する手段を用意することで、気づいてほしい事柄に本人が目をもけやすくなったのではないか。

○気づきに対するエビデンス

①集団生活の中では、担任以外の教師が注意をする場合や、本人の調子の具合で、注意やアドバイスを素直に受け入れられない場面が見られた。そんな時、事前に自分の声で録音していたものを提示する方法はとても効果があった。これは、相手との言葉のやりとりに気持ちが動いていたものを、注意を受けている内容に本人の音声がすんなり注目させる役割を果たしたと考えられる。本人の自尊心も傷つけず、事実だけを伝えることができ、彼にとってはいい方法だと感じている。

・エピソード1

友達の気を引こうとして、わざと「ばか」と言ってしまった。交流学級担任が、その言葉はよくないということを説明しようとするが、なかなか素直に受け入れようとしない。そこで、「けんかとか悪口とか気をつけたい」という本人の声を記録していたものを聞かせながら話したところ、ぱっと表情が変わり、「そうだった。」と素直に友達に謝ることができた。

・エピソード2

担任以外の教師に注意を受け、それを受け入れられずに大泣きしていた時に、本人自作の「Y君の敬語講座」のビデオを見せながらどのような態度で話を聞くのがいいか話をしたところ素直に聞くことができた。



②「悪いY君がでるのはいつ？どうしたらいいか？」ということをも本人と一緒に話し合い、ゲームで負けそうになった時は、「にこっ」で解決。「つのをつんつん」（頭を指で押さえる）でがまん。の約束をして、

ipad の記録を時々確認することで、少しずつ「がまんしよう」と努力する姿が見られるようになってきた。まわりの子ども達も「大丈夫。つんつん。」(合い言葉)と声をかけるようになっていて、けんかになることも少なくなってきた。継続して取り組んで行きたい。

体育のゲームで、自分のチームが負けそうになった時、「勝ち負けじゃないよね。」と交流学級担任に確認する場面が見られた。これは、彼なりに負ける悔しさを解消しようとした行動の表れではないかと考えられる。

○主観的気づき

(2) 自分の気持ちを声に出すこと、そしてその記録をいつでも簡単に確認できることで、本人の中の漠然としていた気持ちが整理され、「いい自分像」を思い描けるようになったのではないかな。

○気づきに対するエビデンス

- ① 運動会練習 1 回目の短距離走では途中で泣いてしまった。しかしその後のインタビューでは「がんばれば1位とかなれる。でも泣かない。絶対です。走れます。」と、次への意欲を表した。その後「本番は、ちゃんとやらないとダメだから、本番もがんばるとけっしんしたいです。がんばります。」と勝敗のことではない内容に変化。順番へのこだわりを少しずつ克服していったのではないかと考えられる。
- ② 初めのスタートは教師主導によるインタビュー形式の記録だったが、運動会に近づくにつれて日記に運動会について書いてくるようになった。そこで、その日記をカメラで撮り、貼り付けていくという形にしていた。自分の気持ちをメインに日記を書いてくることはそれまでほとんどなかったため、それだけ意識が高まったと考えられる。この頃から家庭でも「かけっこもダンスも最後までがんばる。」と本人が話すようになっていたということである。



走った時5位になっちゃったけど、がんばれば1位とかなれる。でも泣かない。絶対です。走れます。(音声)



去年は、おどれなかったけど今はおどるけっしんをして、本番はおどります。がんばるぞ。(日記を添付)

運動会に向けて。振り返りインタビュー(抜粋)

・自ら綴ってきた日記より

去年はおどれなかったけど今はおどるとけっしんして本番はおどります。がんばるぞー。(9月22日の日記)
本番はがんばってちゃんとやないとダメだから本番もがんばるしんけんしたいです。がんばるぞー。
(9月25日の日記)

・保護者のお手紙より

去年はまったくといってもいいぐらい参加することなく一人の世界に入り込んでいたのに今年は係の仕事も一生懸命していたし、一番びっくりしたことがダンスを最初から最後までおどることができていたのに
はすごく感動しました。

- ③ この取り組みを続ける中で、友達を応援する様子も見られた。後でそのことをインタビューしてみると「がんばれ。ファイトー発! って言った。相手がおこっちゃうから、嫌な気持ちになるから、やさしく言った。〇〇くんは超かっこいい。がんばったら超かっこいい。」(音声記録より)と答え友達への思いやりの気持ちもうかがわれた。このように気持ちを自分の声で振り返ること、そしていつでもそれが確認できるということが自分でも心地よい瞬間であり、友達への思いやりという部分へと導いているように感じられる。

○主観的気づき

(3) 友達と共感する喜びを感じることで、友達への関心が高まったのではないかな。

○気づきに対するエビデンス

①「はみがき表」が活用されることにより、「使ってくれた」、「作ってくれた」という感情が、より良い関係作りに導いてくれている。Y児に対して注意しがちだった他の児童が、温かい目で見守ってくれることも多くなり、休み時間の遊び方にも少しずつ変化が出てきた。それまで「ぼくのだから」とipadをさわらせようとしなかったY児だったが、しだいに共有して他児童と楽しむ場面も見られるようになり、時には友達にipadを手渡して傍らで笑いながら覗く場面も見られ、心に余裕が生まれてきているように感じられる。友達と共に使用することで楽しさを実感。そしてそれがipadを介さない他の場面にも広がっていった。

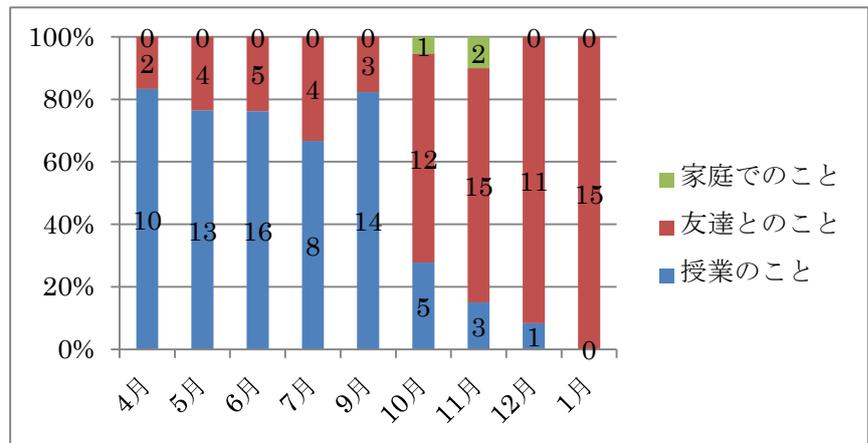


友達とはみがきをする様子

・日記の内容の変化から、友達との関わりが増えたことがうかがわれる。

4月から1月の日記の内容の変化

4月段階では、授業に関することを日記に書いてくることがほとんどだったが、月を追うごとに、友達と遊んだことを日記に書いてくることが多くなった。これは、これまで以上に友達との関わりが増えたこと、そして本人にとって印象に残ってきたことの表れであると考えられる。



・本人の日記より

休み時間に外でけり野球をしました。5人でけり野球をして楽しかったです。	(5月13日)
昼休みに外でボールあつてをしました。ボールあつてで一年生にやさしく投げて楽しかったです。	(6月23日)
昼休みに体育館でいろいろな遊びをしました。いろいろな遊びをしてとてもすごく楽しかったです。	(7月2日)
昼休みに外で1, 2, 3, 4, 5, 6年生とこおりおにをしました。おににタッチされてちがう人にタッチにげて楽しかったです。	(9月30日)
昼休みに、1, 2, 3, 4年生でとうそう中をしました。とうそう中をしてハンターにタッチされてろうやに入ってがんばれおうえんをして楽しかったです。	(10月2日)

※タッチされても泣かずに遊びを楽しめるようになってきたことが表れている。(勝負へのこだわりの減少)

○主観的気づき

(4) 褒められる経験を積むことで、苦手を自信にかえつつあるのではないか。

○気づきに対するエビデンス

①これまで発表する場面では、はずかしくて小さな声になったり途中で座り込んでしまったりすることが多かった。しかし、ipadを使って発表を繰り返す中で、準備から発表まで自分でできることに自信をつけ、最近では他の場面でも発表することが多くなっている。また、学習発表会のビデオ制作では、出来上がっていく自分の登場する作品を大笑いしながら何度も見て、昨年度は嫌がりなかなか進まなかったナレーション録音も今年度は何度撮り直しになっても、きちんとと言えるまで諦めず取り組んだ。「ビデオの発表して

ドキドキ楽しかったです。」という日記からも本人の満足度がうかがえる。毎年行っている学習発表会でのビデオ発表は全校への理解教育の役割もあると感じているので今後も続けていきたい。

・学習発表会保護者アンケートより

・楽しい発表で素敵でした。子どももタブレットを使ってビデオ、音楽、絵など楽しいと教えてくれます。・一人のために3、4年生全員で助け合う姿を見て感動しました。改めてすごく素敵なクラスだと思いました。この先もみんなで仲良く楽しく過ごしていってほしいと思います。・3、4年生みんなで仲良く教室で歯ブラシダンスをしている姿が一番印象に残りとても楽しくなり大笑いしてしまいました。来年も楽しみです。・毎年ビデオ発表を楽しみにみえています。本を使ったストーリーを上手く使い自分でも発想することのないものに結びつけられ驚きと笑いでみさせていただきました。子どもも楽しかったようで発表前まで伝えたいのと内緒なのと混合している様子でした。・ユニークなビデオでよかったです。これからは、タブレットの利用が増えていくのもっと利用してほしいです。・Y君の成長ぶりはもちろん、豊かな表現、交流学級の友達とあたたかなつながりなどが画面を通してたくさん伝わってきました。

②音読は、記録を残すことで毎日の習慣となっている。しかし、しだいに日課としてこなすようになると同じ本を選んで読むようになってきた。それでも音読の練習にはなっていたが、後半は月ごとに選ぶ本のテーマを決めたり、図書室のお薦めの本から選ばせたりして様々な本に触れさせた。すると、音読の途中で挿絵を見ながら内容を確認したり、音読後「おもしろかった。」と感想を言ったりするようになってきた。音読を習慣づけることで、少しずつ読解力がついてきているようだ。作文を書く力も少しずつ表れてきて、以前は正しく書けなかった促音がほぼ正しく書けるようになってきている。また、音声絵本作りの活動では、どこを読み間違えたのか本人にも確認しやすく、再度読む時には、正しく読もうと心がける姿が見られた。絵本の挿絵の撮影で、イメージがよりつかみやすくなったことが音読の助けとなっているようだ。

・これまでの音読読書冊数

	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
音読冊数(冊)	15	7	11	11	8	7	8	9	76

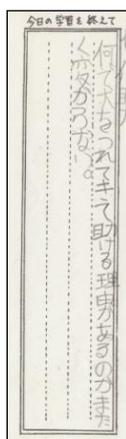
【さいごに】

これまでの様々な取り組みを通して、道徳学習後の感想に変化が生まれてきている。そこに、本人の心の動きが感じられるようになってきた。最近の彼の行動からも感じてきていることだが、少しずつ、でも確実に、相手の気持ちに目を向けられるようになってきているのではないだろうか。

6月3日

道徳「耳をおいて出かけられますか」の学習、聴導犬への理解を学習した後の感想で、「何で犬をつれてきて助ける理由があるのか、またく変からない。(わからない)」との感想。

—交流学級での一斉指導—



12月3日 「とべないホテル」の学習後の感想。

